

<様式1>

令和3年度 さいたま市立大宮小学校 自己評価書

校長 _____ 石井 寛 _____



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 目指す学校像を「児童が生き生きと活動する学校」として、「自分から進んで学び、活動する子」「優しい心を持ち、正義を愛し、素直に感動できる子」「進んで心身を鍛える子」「互いにかかわり合い、他者を尊重できる子」の育成を図る。
——各教科等の授業の状況、いじめの防止等の状況、生徒指導の状況
- (2) 目指す学校像を「地域とともに歩む学校」として、「地域、保護者の信頼にこたえる学校」「地域の教育力等を活用した学校」づくりを図る。
——家庭や地域との連携の状況
- (3) 実現すべき学校の姿に「安全安心な学校」「事故ゼロの学校」「開かれた学校」「元気な教職員のいる学校」を掲げて目指す。
——組織運営に関わる状況、教職員の働き方の状況

2 評価結果について

- ・体力づくり、交通安全・防災・防犯、読書に関わる項目については、昨年度平均89%、今年度平均92%の肯定的な回答があった。しかし、問いや立場によって、最大で20%程の差異が見られる。今後の情報発信が課題であると考える。
- ・「保護者の相談や要望に適切に対応している」は、保護者からは昨年度93%、今年度94%の肯定的な回答を得た。来校機会が減っている中での情報発信を更なる課題としていく。
- ・「分かりやすい授業を行っている」について肯定的な児童・保護者・教職員の回答は、昨年度平均96%に対し、平均94%であった。授業改善は引き続き進められていると考える。
- ・「授業中に褒められたり励まされたりしている」について肯定的な児童・保護者の回答は、昨年度平均も今年度平均も90%であった。存在をみとめ、成長をよろこび、活動をみまもる「勇気づけ」の授業が引き続き実施されていると考える。
- ・「友達と仲良く生活できている」「いじめの防止、早期解決に真剣に取り組んでいる」について、昨年度は平均97%、今年度は平均96%が肯定的な評価である。引き続き、優しい児童が育っていると考える。
- ・年間の学校行事や活動について、肯定的な教員の声があった。しかし、教員の指導の振れ幅があり、学年・学校で共通理解・共通指導の必要を感じる声も挙がっている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・「分かりやすい授業」の継続と、「力が付く指導」「勇気づけ」について、研修を進めていく。研究主題『「思考・判断・表現力を培い、学びに向かう人間性を高める協働学習とは」～児童主体の課題解決学習を通して～』を設定し、学校課題研修を通して実践を行っていく。
- ・体力づくり、交通安全・防災・防犯、読書への指導において、過去の取組と感染防止策を合わせた新たな形で実施していく。今年度だけの特別な指導ではなく、日常に落とし込む方向性を探っていく。
- ・行事や活動については、例年より削減した現在の状態をある程度維持しつつ、その内容を厳選してさらにスリム化を図り、共通理解・共通指導を行っていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。